

# 担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

## 今月の話題

# 国産麦 東京にPR拠点 加工品の全国進出後押し

**全** 国米麦改良協会は6月27日、国内初となる国産麦のアンテナショップ「むぎくらべ」を7月2日に東京都千代田区に開店すると発表しました。調理設備を完備し、出来たての料理が提供できる他、加工商品の展示販売が可能。JAや製パン・製麺業者に開放し、わずかな費用で1週間の期間を基本に出展できます。消費者の反応を確かめる拠点とし、麦加工食品の全国進出を後押しします。

アンテナショップの住所は、東京都千代田区神田

小川町2の1の1。人通りの多いオフィス街に設置しました。麺用のゆ

で釜やパン用オーブンなど基本的な調理設備を完備。店内には23席の飲食スペースを設けています。商品を展示販



売する際は、店内陳列棚に

出品。遠方などで出展者の上京が困難な場合、商品を郵送し、陳列・販売を委託することもできます。

出展費用は光熱費として、売り上げの5%を支払います。店内の給仕や会計担当の店員も協会が用意。

出展者は売り込みや調理作業に専念できます。食材や調理器具、商品を地方から同店に運ぶ際の輸送費は協会が全額負担します。

地方や中小の業者は、資金や人員確保が難しく、販促活動を十分にできないとの傾向がありますが、その課題を解決できます。同協会が「特産物を全国展開する足掛かりにしてほしい」と

呼び掛けます。

営業時間は平日の午前10時～午後6時。問い合わせは事務局を務める運営会社カタボー、(電)03(6)811-0595。

今が旬  
この言葉

農場  
HACCP

農場HACCP(危害分析重要管理点)は、農場の衛生管理などを明確にし、畜産物や加工品の安全性を保証する制度です。中央畜産会などが中心となり認証を進めています。中央畜産会は7月から農場HACCPの認証マークを、精肉やハムなどの畜産物にも表示できるようにしました。国際的に通用する基準を設定しているため、海外に販路拡大を検討する農場にとっては、大きなPR材料になります。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介いたします。

三 重県農業研究所は新たに飼料用米の乾燥体系を発表しました。新たな体系は、収穫後の籾米を生籾の状態です。玄米で乾燥させることにより、低コストな乾燥体系を実現しています。籾すりには水分の高い籾米への適応性が優れるインペラ式籾すり機を用い、乾燥には循環式乾燥機を利用します。

## 飼料用米の低コスト乾燥体系を確立 生産拡大を後押し

これまで飼料用米においても主食用米と同様、籾米で乾燥する体系でした。新たな乾燥体系では、玄米で乾燥させることにより、灯油消費量は5割減、作業時間と電力消費量は4割削減できます。また、乾燥機内の充填率を4割程度削減でき、1台の乾燥機で1回に乾燥できる飼料用米の重量を増やすことができます。この乾燥体系においても、籾米での乾燥と同等の歩留まり、飼料成分値となります。ただし、水分の多い生籾を籾すりすると処理能力と脱ぶ率が低下するため、主食用米に比べて収穫時の籾米水分が低くなつてから収穫する必要があります。今後、インペラ式籾すり機の処理能力を高めることで籾すりの能率改善が期待できます。



インペラ式籾摺り機。生籾の脱ぎぶを行います。

お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産研究課 ☎ 0598-42-6359

(日本農業新聞より)

## JAみえきた 黒ニンニク 特産品化へ町ぐるみ

JAみえきた管内の川越町では、地元企業や地元団体、JA川越支店が協力し、地域の特産品化を目指して「黒ニンニク」作りに取り組んでいる。ニンニク特有の臭いがほとんどせず、生ニンニクに比べ約9倍のポリフェノールを含むとされる。抗酸化力も10倍以上と高く生活習慣病予防に効果的といわれる。地産地消に取り組む同町ふれあい広場運営協議会の会員ら15人が、昨年種球約200キロを同町の(株)レストランサポートから購入し、9月にニンニク栽培を始めた。(2018/8/8 ワイド2東海)

## JA鈴鹿 市長に贈呈 「あま酒」PR

JA鈴鹿は8月6日、末松則子鈴鹿市長を表敬訪問し、地元産米「コシヒカリ」を使い6次産業化商品として7月発売した「あま酒」を贈呈した。末松市長は「滑らかで雑味がなくおいしい。丁寧に作られていると思う。サイズ感も飲みきりサイズで良い」と話した。商品は薄めずに飲めるストレートタイプで、冷やしても、湯煎で温めてもおいしい。価格は140グラム入り220円。果菜彩鈴鹿店、稲生店、亀山店の3店舗で販売している。(2018/8/7 ワイド1東海)

## JA三重中央 無人ヘリ水稲防除 今年630ヘクタール

JA三重中央は7月中旬から管内4地区(一志、美杉、白山、久居)の水稲圃場(ほじょう)で、いもち病、カメムシ類、ウンカ類の防除のため、産業用無人ヘリコプターを使って農薬の空中散布を行っている。無人ヘリは農薬を広範囲に散布でき、また機械性能が向上しており散布むらが少ない。作業は短時間、人員も少なく済み省力化につながる。今後は、一志、白山地区の希望者を対象に、8月下旬から9月上旬、9月下旬から10月上旬の2回に分け、同じヘリコプターを使って大豆圃場の防除作業を行う予定だ。(2018/7/31 ワイド2東海)

明日の農業を担うみなさまへ  
JAバンクは地域農業を応援します!

農業を営むすべての方に

# 農業経営資金

対象期間/平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

JAバンク利子補給制度(3年同)と  
当JA金利引き下げ(2年同)措置の対象となります。  
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利) 変動金利 年1%	-	(JAバンク利子補給・金利引き下げ) 年0.8%	=	実質 年 <b>0.2%</b> <b>5年間</b>
---------------------	---	-----------------------------	---	-----------------------------

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>  
平成30年8月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。  
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。  
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。